

★漢方あれこれ★

◆文撃◆

春秋時代(紀元前500年頃)の名医

太田 順康

命を賭けて畜王の治療にあたった逸話を持つ名医。

畜の閔王が頭痛と気鬱の病氣になった時、皇太子は早速当時名医として名高い宋の文撃を迎えにやりました。閔王を診察した皇太子に「王の病氣は治ります。が病氣が治った時、王は必ず私を殺すでしょう」と告げた。「王の病は怒らせなければ治りません、王を怒らせれば、私は必ず殺されるでしょう」

皇太子は「王の病氣が治れば、母と2人で命をかけて、王を諫めます。王は必ず私たちの云うことを聞いてくれるでしょう。どうか王の病氣を治して下さい」

皇太子の孝行意識にほだされて、文撃は再度来訪することを約して帰郷しました。そして往診の約束の日を再々無視していました。この時点で王は「俺を馬鹿にするか」と大分怒っていました。やっと診察に現れた文撃は土足のままベッドに上がり、「まだ気分が勝れませんか、しぶとい人だ」と揶揄しました。これに王が我慢ならず、かっとなって怒鳴り散らしました。すると王の頭痛や気鬱の病氣がきれいに治ってしまいました。ただあまりにも怒りのため、文撃を煮殺せと命じました。皇太子と皇母が必死で諫めましたが、王は聞き入れません。文撃は3日3晩煮られました。そこで文撃は「本当に私を殺したければどうして覆いをして、陰陽の気の交流を絶たないのですか」と問いかけました。そこで王は鼎に蓋をしてしまいました。こうして文撃は死んでいきました。王はスーッとすると気分が爽快になり元気になったそうです。

王の病氣は憂慮が過ぎて、脾土が鬱してしまった結果起こった病でした。怒ることで肝木が昂り脾土の鬱滞を発散させることにより、病氣が治るのです。

これは五行説による病氣の治療法です。なぜ治るか説明するのはとても難しいのですが、気鬱などの精神不安などに五行説を用いた治療法が現在でも行われています。また蓋をして陰陽の交流をなくすとは、陽は呼、陰は吸の交流を無くし呼吸が出来なくすることで、漢方の大原則の陰陽説から来ています。

文撃は、命を投げ出して皇太子に孝行させた名医として語り継がれています。

閔王が後日之を悔いてまた鬱になったら、良いのにと私は思うのですが、そんな話は何処にも出て来ません。

(つづく)



お知らせ

春禪洞

すこやか教室 山歩き

◎10:30 出発です。

3月。春です。

春の陽ざしを浴びて、路肩の草たちが顔を出し、木々の芽も膨らんできました。風はまだ冷たいですが、お天気が良いときは春の陽ざしを楽しみましょう。自然の風に触れ自然の声を聴きましょう。

雲の流れ、風のそよぎ、滝の音や岩肌苔の潤す水滴など、心地よい春のささやきが満ちています。松尾池や滝まで歩きます。ぜひお出かけください。

6日(金) 20日(金) 27日(金)

(13日は都合によりお休みです)

§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範、岐阜県漢方研究会会長、岐阜薬科大学「漢方学」講師)

今月の漢方相談日は、下記のとおりです。

9日(月) 23日(月) 30日(月)

§ 3月の休診日

16日(月)



太田先生の

「くらしの
薬草と漢方薬」

ハーブ・民間薬・生薬

新日本法規出版
B5版・総頁382頁
価格 3,300円＋税